

第1学年 学級活動学習指導案

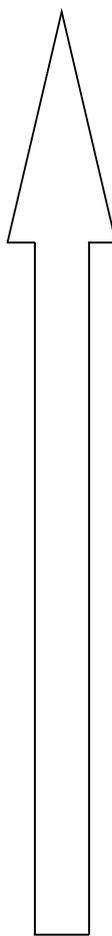
指導者 (T1)
 養護教諭 (T2)

1 題材名 「けがのてあてのしかた」(全1時間)

2 学習を進めるにあたって

めざす子どもの姿	
○	けがのてあてを自分でやってみようと意欲をもつ子ども (関心・意欲・態度)
○	けがをしたときに、どのような行動をとればいいのか考え、実践できる子ども (思考・判断・実践)
○	血液のはたらきを知り、簡単なけがのてあてについて理解できる子ども (知識・理解)

こんな教材で こんな学習過程で	
	○ 学校生活の中で、1番多いけがであるすり傷について、自分がどのように対処していったらいいのかを知り、健康な生活への関心を高めるのに価値のある学習である。
つかむ	○ アンケートの結果から、学校でけがをしているのは、擦り傷が1番多いことを確かめる。
さぐる	○ 擦り傷をしたときに出る血液について、そのはたらきを知る。
深める	○ 今まで、けがをしたときは、どのようにしていたか、アンケートなどをもとに振り返り、正しい対処の仕方を知る。
まとめる	○ 本時の学習で分かったことをまとめ、今後どのように行動していきたいのか考える。



こんな支援で	
○	アンケートをとって、児童の実態を把握し、アンケート結果をまとめておく。
○	休み時間の様子をビデオで見せ、けがをしたときのことを思い出させる。
○	1年組の保健室利用記録やアンケート結果から、子ども達のけがの実態を知らせるためのクイズを出して、自分達は学校生活の中で思いの外、けがをしていることに気づかせる。
○	子ども達の興味関心を高めるために血液を擬人化したペープサート劇にし、血液の働きについて知らせる。
○	子ども達の普段のけがをした後の様子を絵カードにして見せ、自分はどうしていたか振り返らせる。
○	正しい対処の仕方について、養護教諭に話をしてもらい、実際にやってみる。
○	ふりかえりカードと同じものを教室掲示に残し、今後の生活に活かせるようにする。

こんな子どもだから	
○	本学級の子ども達は、学校のきまりを守って安全な生活をしなければならないと分かっているものの、今までの保健室利用統計を見ると、多くの子どもが来室していることが分かる。アンケートの結果からも、擦り傷や打ち身が多いと、子どもたち自身が自覚していることが分かった。 普段、子ども達がけがをしたとき、「先生、けがをしました。」とけがをした状態のまま報告に来ることがほとんどで、傷口を洗ってから来る子、血を拭いてから来る子、けがをしたからどうしたいのかを告げる子は、ほとんどいない。
○	「けがをしたら、どのような行動をとっているか」というアンケートの質問に対し、18人の子どもが担任か養護教諭に言えばよいと思っており、何もしない子どもが7人、傷口を洗うなど自分で行動を起こしている子どもは5人であった。なお、毎日ハンカチ・ティッシュを持ち歩いている子は少ない。
○	体育や日常指導の中でけがの予防は学習しているが、けがのてあてについては初めてである。

第1学年 学級活動学習指導案（本時案）

1 本時 平成24年 月 日（ ） 公開Ⅱ 1年 組教室にて

2 本時の中心となる評価規準

- けがのてあてを自分でやってみようと意欲をもつことができる。（関心・意欲・態度）
- けがをしたときに、どのような行動をとればいいのか考え、実践できる。（思考・判断・実践）
- 血液のはたらきを知り、簡単なけがのてあてについて理解できる（知識・理解）

3 本時学習を進めるにあたって

今まで子ども達は、けがをしたときは、担任に知らせるか、保健室に行けばよいという認識をもち、そのように行動してきた。そこで本時では、血液のはたらきを学習することにより、傷口は清潔にすべきだと気づかせ、軽度の擦り傷のてあてのしかたについて考えさせていきたい。そして、今後は傷口を水で洗うようにしよう、清潔なハンカチやティッシュを携帯しようなど、生活の中で実践できる力を育てていきたい。

4 準備

ビデオ、ペープサート、けがをしたときの絵カード、水とバケツ、赤シール、ふりかえりカード

5 展開（1/1時）

分	子どもの主な学習活動	教師の支援活動（※は評価）
0	1 学校でどんなけがをしているか確認する。 ○擦り傷が1番多い。	○ 休み時間の様子をビデオで見せ、けがをしたときのことを思い出させる。（T1） ○ 子どもたちに前もって行ったアンケートや、保健室統計をもとに、現状をクイズにして知らせ、関心をもたせる。（T1）
5	2 学習のめあてをつかむ。	
	めあて けがをしたときはどうしたらいいか かんがえよう。	
15	3 血液のはたらきを知る。 ○赤血球・・・酸素を運ぶ 白血球・・・ばい菌をやっつける 血小板・・・傷口をふさぐ ○傷口をそのままにしていたらどうなるか	○ 子ども達の興味関心を高めるために血液を擬人化したペープサート劇にし、血液のはたらきを理解させる。 ○ 傷口を洗わずにいたら、ばい菌が繁殖し、治癒しようとする力がはたらきにくくなることから、傷口をすぐにきれいにしなければならぬと気づかせる。（T1） ※ 血液のはたらきについて理解し、傷口を清潔にした方がよいことに気づいている。（観察）
20	4 けがをしたときは、どうしたらいいか考える。 ○今までの自分 ○正しい対処のしかた ・養護教諭の話聞く ・実際に傷口の洗い方をやってみる	○ 今までの子どもたちの様子を絵カードにして示し、自分がどうしていたか振り返らせる。（T1） ○ 正しい対処のしかたについて、養護教諭より話をもらう。（T2） ○ 傷口の洗い方・血の拭き方を実際に体験させる。 ※ 擦り傷のてあてのしかたを理解し、意欲的にやってみようとしている。（観察）
35	5 学習のまとめをする。	
	まとめ けがをしたら、じぶんで、みずであらって、きずぐちをきれいにする。	
	○分かったことと、これからどうしたいかを書く。	○ ふりかえりカードと同じものを教室掲示に残すことで、今後の生活に活かせるようにする。（T1） ※ これからはけがのてあてを自分でやってみようという気持ちをもっている。（ふりかえりカード・観察）